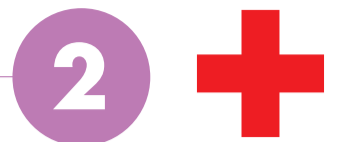


赤十字NEWS

February 2017 Vol.921
<http://www.jrc.or.jp>



人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



癒しの爆笑

一人で生きられないのは誰もが同じ。家族はもちろん、友達やご近所さんと支え、支えられての社会です。認知症になると、支えてもらう時間や量は増えるかもしれないけれど、笑顔が広がれば皆が幸せに。私たち日本赤十字社は、そんな高齢化社会を目指し、福祉課題にも取り組んでいます。(関連記事 P4.5)

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会主催「第9回介護作文・フォトコンテスト」のフォト部門優秀賞作品「幸せな爆笑」より

CONTENTS

TOPICS

赤十字子供の家
子どもたちがうどん作りに初挑戦
北海道で厳冬期災害演習
停電下の避難所生活を検証
愛知県支部の多文化共生事業
外国人救急指導員が3人誕生
平成28年熊本地震災害義援金情報
健康豆知識 健康づくりと口腔ケア

TOPICS

阪神・淡路大震災から22年
あの日を忘れない
糸魚川市大規模火災
救援活動のご報告

SPECIAL

ちょっと「ほっ」とな
認知症の話
笑顔を介護の
パートナーに

AREA NEWS

福島・茨城・神奈川・富山
京都・大阪・兵庫・山口・徳島
香川・大分
赤十字レッドライトアップ
PJのお知らせ
常任理事会開催報告・
第89回代議員会開催公告
プレゼント

WORLD

シリア難民支援
ヨルダン赤新月社が「こころのケア」
救済金ご報告
イタリア中部地震、ハイチハリケーン
連載
人道支援の現場から⑦
シリア難民救援事業(レバノン)
関塚 美穂



今月の出会い

介護の喜びを社会に



公益社団法人
全国老人福祉施設協議会 会長
石川 憲さん

「大変なことが多いのも事実ですが、それに勝る喜びを感じられるのが介護の仕事です」。全国約1万2000の高齢者施設・事業者が加入する全国老人福祉施設協議会の会長を務める石川憲さん。多くの介護施設が職員不足に悩んでいますが、「介護を通じた喜びややりがい、尊さは何ものにも代え難い。そこを見て欲しい」と訴えます。

そんな介護の魅力を発信するため、同協議会が実施しているのが「介護作文・フォトコンテスト」。9回目の昨年は、過去最多の作品が集まりました。「高齢者のはじけるような笑顔の写真など素敵な作品が寄せられました。介護の素晴らしさを感じている方が大勢いらっしゃるとうれしい」と微笑みます。

コンピューター業界から福祉の世界に入った30代後半。「措置制度

の時代、最初感じたのは雰囲気暗さです。まず率先して挨拶をすることから徹底しました。料理をミキサーでかき混ぜる『ミキサー食』にも「これを食べさせるの？」と驚きました。福祉の素人だっただけに、問題点も良く見えたと言います。これらの改善に現場から取り組み、嚙下食^{えんげ}の開発などにも携わってきました。

「要介護者に喜んでもらうことが職員の何よりの喜び。笑顔があるからこそ、次の目標を目指すのが僕らの仕事です」

※見た目や食感、味にこだわりつつ、歯がない方も食べることができる工夫をしたやわらかな料理

PROFILE

1948年香川県生まれ。ソフトウェアエンジニアを経て、高齢者福祉の業界に。現在、社会福祉法人香東園理事長。一般の方も利用可能な温泉を施設内に設置するなど、地域との交流を重視した運営が目立っている。2013年、全国老人福祉施設協議会会長に就任。

赤十字子供の家

子どもたちがうどん作りで初挑戦



丸亀製麺は昨年のクリスマスに、釜揚げうどん一杯につき1円を赤十字子供の家に寄付するキャンペーンを全国で実施。教室の最後には、丸亀製麺から寺田園長に寄付目録が手渡されました

「おいしくなれ、おいしくなれ」。手でこねたうどん生地の仕上げは足踏みとみんの掛け声。「力を合わせるとおいしくなるよ」という先生の激励に、子どもたちの足踏みと声にも力が入ります。赤十字子供の家(東京都武蔵野市)に入所する子どもたちが、1月14日(うどん作り)に初挑戦。ゆでたての麺をほおばり、ほっぺにのっぺい笑顔が浮かびました。赤十字子供の家は、日本赤十字社が運営する児童養護施設。家庭環境などにより施設での保護養育を必要とされた子どもたちが入所しています。うどん作りは、株式会社トリドールホールディングスが全国展開するうどん専門店「丸亀製麺」の社会貢献活動として企画されたもので、同施設に入所する5歳以上の子どものうち11人が参加しました。

赤十字子供の家の寺田政彦園長は「施設で暮らす子どもたちは、さまざまな体験が不足しがちです。こうした機会が貴重な経験になります」と話してくれました。

北海道で厳冬期災害演習 停電下の避難所生活を検証

冬期に災害が生じた際に命を守る対応策を検証するため、日本赤十字北海道看護大学(北見市)で1月14日、「2017厳冬期災害演習」が行われ、各行政機関や日赤各支部・施設から130人が参加しました。主催は同大学災害対策研究センターで、厳冬期に実施するのは4回目。今回の目的は、冬期の停電時であっても避難所で安全に生活できるノウハウを獲得すること。参加者は、数年に一度の厳しい寒波により摂氏2度程度に冷え込んだ体育館内で、段ボールベッドを組み立て、一晩過ごしました。お店の釜でゆであうどんは、太いものから細いものまで、手作りならではの出来栄です。子どもたちからは「おいしい!」の歓声が次々に上がりました。試食した寺田園長は「自分たちで作ったうどんですから味も格別。みんな良い表情をしています」と顔をほころばせました。丸亀製麺武蔵野のチーフマネージャー山口寛さんは「子どもたちが楽しんでくれたのがうれしですね。こうして一緒に手作りするときは、職員にとっても勉強になります」と話してくれました。

平成28年熊本地震災害 日本赤十字社ウェブサイト (http://www.jrc.or.jp) 義援金の受付は2017年3月31日(金)まで行っております。引き続き、皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。 義援金の受付・送金状況 【受付】 277億4,641万3,924円 (2017年1月20日現在) 【送金】 272億4,876万9,290円 (2017年1月4日現在) ※日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、手数料などはいただくことなく全額が被災者に設置された義援金配分委員会を通じて、被災者に届けられております ※関連事務費については、活動資金(日赤を支援くださる方々からの会費や寄付金)により対応しております

愛知県支部の多文化共生事業 外国人救急指導員が3人誕生

外国人住民を対象にした赤十字救急法指導員養成講習会が昨秋、愛知県支部で初開催され、3人が検定に合格。12月17日に救急法指導員認定証交付式が行われました。外国人住民の比率が全国2位の愛知県。言葉の壁などから災害時などに困難に直面する外国人は少なくありません。彼らを要配慮者として捉えるのではなく、地域の支援者として活躍できるように、同県支部では平成26年度から外国人ボランティアの養成などを図る多文化共生事業に取り組んでいます。外国人対象の救急法指導員養成講習会もその一環として企画されました。今後も同県支部は行政や県内の国際交流協会とさらなる連携強化を図り、外国人指導員の活躍の場を提供するとともに、外国人住民が地域社会活動の担い手として赤十字奉仕団の一員になるなど、多文化共生社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを展開していきます。

認定証を受け取ったインドネシア出身の小川ニアさん。「言葉の壁を乗り越えて一生懸命勉強しました。失敗することもあるかもしれませんが、命を守るための大切さを多くの人に伝えていきたい」と抱負を語っています

知って良かった! 日赤のドクター&ナースが教える健康豆知識 ③2 健康づくりと口腔ケア 毎日の歯磨きと定期的な歯科医受診を 沖縄赤十字病院 歯科口腔外科医師 牧志 祥子 口内にはたくさんの細菌が常駐しています。この細菌と、口内に残された食べ物のかすがくっついたものが歯垢です。つまり歯垢は細菌の固まりといえます。寝起きに歯面がネバネバすることがありますが、これは歯垢の中の細菌が増殖したもののなのです。このように口の中が歯垢で汚れた状態だと、唾液も汚染されてしまいます。それが原因で誤嚥性肺炎などが引き起こされることも分かってきました。こうした点から最近、口腔ケアと体全体の健康の関連に注目が集まっています。例えば、糖尿病と歯周病が相互に関連していることが明らかになっていき、歯の健康を保ち自分で食べることで脳を活性化させ、認知症予防につながることも指摘されています。 口腔ケアの基本は歯磨き。虫歯や歯周病の原因となる歯垢を除去することが大切です。食後なるべく早い方が効果的ですが、重要なのは磨き方。力いっぱい磨く人もいますが、これではブラシの毛先が歯の表面から逃げてしまい歯垢は落ちません。毛先を歯の表面に当てる程度で、横に細かく動かします。磨き残しがないよう、磨く順番を決めておきましょう。また外出時など食後の歯磨きが難しい場合は、ぶくぶくうがいも心掛けてください。歯垢を落とすことはできませんが、口内の細菌を減らす効果は得られます。 歯科医の受診についてですが、半年~1年に一度は診てもらいましょう。というのも、日本人の大人の大半は歯周病だといわれているのですが、歯周病は痛みを伴う虫歯と違い、悪化するまで気がつかない人が少なくからです。歯周病の発見や治療と併せて、歯磨きでは落とせない歯石の除去を定期的に行ってもらいましょう。 最後に自身での口腔ケアができない方への対応です。認知症患者さんの中には、歯磨きを嫌がる方もいて、本人は「何をされるんだろう」という強い不安を抱えています。介護者は、何を嫌がっているのかを考え、不安を取り除くことが大切です。焦らず、リラックスできる雰囲気づくりから始めてください。

阪神・淡路大震災から22年

あの日を忘れない
メモリアルウォークで
震災経験を継承

6434人が亡くなった阪神・淡路大震災から22年目の1月17日。被災地では犠牲者の追悼式とともに震災の経験を継承するため、さまざまなイベントが開催されました。

その一つが「ひょうごメモリアルウォーク2017」。緊急時の避難路を歩き、震災時を追体験することで防災意識を高めようという取り組みです。日本赤十字社兵庫支部は、支部駐車場を参加者の休憩所として提供。炊き出した味噌汁

1000食で身体を温めてもらいました。一方、メモリアルウォークのゴール「なぎさ公園」(神戸市)では、dERU(緊急仮設診療所)を展開し、海上保安部や消防局などの関係機関と共同で防災訓練を実施。救助された海上漂流者のトリアージ(患者の緊急性・重傷度に応じて負傷者を分類し、治療の優先順位をつけること)、応急処置の手順を確認したほか、心肺蘇生とAEDのミニ講習会を開きました。



「決して忘れてはいけない
経験です」

寺田俊哉さん(47)、香世さん(48)



歩いていると当時を思い出します。神戸市内の障害者施設で働いて、入所者の皆さんは無事でしたが、保護者の中には亡くなられた方も。一人一人の安否確認に被災地を走り回りました。震災の経験は決して忘れてはいけない。そんな思いで今日は歩いています。(俊哉さん) その年の10月に子どもが生まれたので、子どもの年齢と震災からの年月が同じなんです。子どもは学校で地震のことを勉強しますが、家でもあの時のことは忘れてはいけないと思って、当時の新聞を捨てずに、ずっと取っています。(香世さん)

「追悼の気持ちで
毎年参加しています」

永井緑子さん(72)、山本康子さん(71)



芦屋の自宅は全壊。しばらく別の場所で生活していましたが、いろんな人に助けられました。熊本地震でもそうでしたが、助け合いが大事ですよ。メモリアルウォークは毎年参加しています。マンション内で圧死した知人の供養になればという気持ちです。健康でいる限り、これからも参加します。(永井さん・左) 5年ほど前に越してきたので、震災を直接は体験していません。でも、こうして歩いていると、新しい家ばかりのところがあるんです。「この辺りの家は全部倒れてしまったんだな」って気付かれます。街並みは復興しても、被災された方の心は、簡単には癒されないんじゃないかな。(山本さん・右)

「震災当日もタクシーを
運転しました」

十河敬三さん(79)



震災当日は吹田(大阪府)の千里山でタクシーの運転手をしていて、6時の始業に合わせて事務所待機中でした。すごい揺れでテーブルの下に隠れたことを覚えています。でも、その日も車を走らせたよ。水道管が破裂して水浸しになった道路も走ったなあ。被災地へも行きました。道路の両側の建物も全部倒れていてね。震災の記憶が薄れたことはないよ。震災後に生まれた人も増えているから、イベントは大切だし、ずっと続けて欲しいね。

組織内での経験の継承も課題に

兵庫支部 藤原雅人事務局長



日赤の前は県庁職員として17年間、復興の仕事に携わりましたが、一番の問題は高齢者の生活をどう支えるのかでした。震災後、仮設住宅から恒久住宅への引越しを高齢者優先で進めましたが、その結果、高齢者が集中する団地ができてしまった。一人暮らしで、家に閉じこもる方も少なくありません。特に男性が目立ちます。コミュニティーをどうつくり、その中で高齢者をどう見守っていくのかは、22年がたった今も大きな課題です。しかしわれわれのこうした経験は、その後の震災時に生かされるなど、無駄ではなかったと思っています。そうした意味でも、語り継ぎは大切。個人や地域はもちろん、行政や日赤などの組織内でも必要です。次の災害発生までは数十年以上の単位でしょうから、組織内に経験者がいなくなるのは自明。その穴を埋めるのが語り継ぎだと思います。

「いざというときの支えになる 奉仕精神」

兵庫県三木市赤十字奉仕団委員長

八木和子さん(77)



(兵庫赤十字奉仕団の一員として、防災訓練会場のなぎさ公園で豚汁600食を炊き出し、参加者に提供)

震災当日の朝10時に団員とおにぎり500食を作って、役所から被災地に運んでもらったり、3日目からは団員10人ほどで被災者の皆さんが避難されていた小学校で炊き出しをしたり。奉仕団としてお手伝いを1年以上続けさせていただきました。阪神・淡路の後も、東日本大震災、昨年の熊本地震などが起きましたが、災害はいつどこで起こるか分かりません。だからこそ日赤の奉仕の精神、奉仕団の活動は大切。今日の炊き出しも、そうしたときに備えての訓練を兼ねています。

「若い語り部を育てています」

兵庫県立舞子高等学校

和田茂環境防災科科長



環境防災科では1学年40人の生徒が学んでいます。阪神・淡路で何を体験し、教訓は何だったのかということは、1年生で徹底的に学びます。そして生徒たちは学んだことを、小学生に伝える出前授業などに取り組んでいます。今の生徒たちは誰も阪神・淡路を経験していません。でも「経験していないから、伝えられない」では駄目。それではすべての災害の経験が残らなくなってしまいます。私たちは、阪神・淡路を語り継がねばならない。生徒全員がその語り部になれるよう頑張っています。

糸魚川市大規模火災

日赤が直ちに救援活動

新潟県糸魚川市で昨年12月22日に発生した「平成28年新潟県糸魚川市大規模火災」に際し、日本赤十字社新潟県支部は被災者の皆さんに救援物資を配布するとともに、救護班が避難所での巡回診療に当たりました。この火災では全焼120棟を含む合計147棟が焼損。焼失面積が約4万平方メートルに及ぶ大きな被害が出ました(糸魚川市駅北大火対策本部発表1月23日現在)。

また、多くの安全奉仕団員が救援物資の配布とともに、社会福祉協議会の災害ボランティアセンターの立ち上げや運営を積極的に協力。焼失現場で重機を使って行う「思い出探し」で、ボランティアの安全管理に従事するなど、さまざまな活動に取り組まれました。

新潟県支部は現地からの要請に基づき、緊急セット100セット、安眠セット200セット、毛布200枚などの救援物資を積み込



被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けております。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

義援金名称 平成28年新潟県糸魚川市大規模火災義援金

受付期間 平成29年3月31日(金)まで

郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00130-7-602726
口座加入者名 日赤平成28年新潟県糸魚川市大規模火災義援金

※窓口でのお振り込みの場合、振込手数料は免除されます。※窓口でお渡しする半券(受領証)は、寄付金控除申請の際に必要となります。※銀行振り込み、被災地の新潟県支部の口座でも受け付けております。※お寄せいただいた義援金は、手数料などをいただくことなく、新潟県に設置されている「義援金配分委員会」を通じ、全額を被災された方々にお届けいたします。

詳しくは日本赤十字社のウェブサイト(<http://www.jrc.or.jp>)をご覧ください

広告

社会福祉法人黎明会 (公社)全国有料老人ホーム協会正会員
介護付有料老人ホーム

熱海 ゆとりあ の郷

雄大な眺望と温暖な風土のもと、心豊かに暮らす...
「熱海ゆとりあの郷」には、ほんものの豊かさ、心の安らぎがあります

特別見学会の日程

2月 7日(火)、13日(月)、23日(木)
3月 7日(火)、16日(木)

熱海ゆとりあの郷に住まう魅力

歴史ある社会福祉法人が経営母体
温暖な気候・絶景の眺望
24時間365日 医師・看護師が常駐
自慢の自家温泉
暮らしの多様なサービス
安心の「終のすみか」

熱海ゆとりあの郷「東京入居相談室」

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル東館2階

検索 熱海 ゆとりあ ホームページ <http://www.yutoria.net>

見学の申込みや問い合わせは、下記フリーダイヤルまで。

フリーダイヤル 0120-058-211 受付時間/9時~17時
月曜~金曜

●所在地 / 〒413-0038 静岡県熱海市西熱海町1丁目24番1号 TEL.0557-81-2322 / FAX.0557-82-5260
●交通 / 新幹線・東海道本線熱海駅下車 熱海駅から専用マイクロバス運行(約15分) ●類型 / 介護付有料老人ホーム(一般型
特定施設入居者生活介護) ●居住の権利形態 / 利用権方式 ●利用料の支払い方式 / 一時金方式 ●入居時の要件 / 入居時
自立 ●介護保険 / 静岡県指定介護保険特定施設(一般型特定施設) ●介護予防特定施設 ●介護居室区分 / 全室個室 ●一般
型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制 / 2.5:1 以上



阪神・淡路大震災から22年

あの日を忘れない
メモリアルウォークで
震災経験を継承

6434人が亡くなった阪神・淡路大震災から22年目の1月17日。被災地では犠牲者の追悼式とともに震災の経験を継承するため、さまざまなイベントが開催されました。

その一つが「ひょうごメモリアルウォーク2017」。緊急時の避難路を歩き、震災時を追体験することで防災意識を高めようという取り組みです。日本赤十字社兵庫支部は、支部駐車場を参加者の休憩所として提供。炊き出した味噌汁

1000食で身体を温めてもらいました。一方、メモリアルウォークのゴール「なぎさ公園」(神戸市)では、dERU(緊急仮設診療所)を展開し、海上保安部や消防局などの関係機関と共同で防災訓練を実施。救助された海上漂流者のトリアージ(患者の緊急性・重傷度に応じて負傷者を分類し、治療の優先順位をつけること)、応急処置の手順を確認したほか、心肺蘇生とAEDのミニ講習会を開きました。

「震災当日もタクシーを
運転しました」

十河敬三さん(79)



震災当日は吹田(大阪府)の千里山でタクシーの運転手をしていて、6時の始業に合わせて事務所待機中でした。すごい揺れでテーブルの下に隠れたことを覚えています。でも、その日も車を走らせたよ。水道管が破裂して水浸しになった道路も走ったなあ。被災地へも行きました。道路の両側の建物も全部倒れていてね。震災の記憶が薄れたことはないよ。震災後に生まれた人も増えているから、イベントは大切だし、ずっと続けて欲しいね。

「追悼の気持ちで
毎年参加しています」

永井緑子さん(72)、山本康子さん(71)



芦屋の自宅は全壊。しばらく別の場所で生活していましたが、いろんな人に助けられました。熊本地震でもそうでしたが、助け合いが大事ですよ。メモリアルウォークは毎年参加しています。マンション内で圧死した知人の供養になればという気持ちです。健康でいる限り、これからも参加します。(永井さん・左) 5年ほど前に越してきたので、震災を直接は体験していません。でも、こうして歩いていると、新しい家ばかりのところがあるんです。「この辺りの家は全部倒れてしまったんだな」と気付かれます。街並みは復興しても、被災された方の心は、簡単には癒されないんじゃないかな。(山本さん・右)

「決して忘れてはいけない
経験です」

寺田俊哉さん(47)、香世さん(48)



歩いていると当時を思い出します。神戸市内の障害者施設で働いて、入所者の皆さんは無事でしたが、保護者の中には亡くなられた方も。一人一人の安否確認に被災地を走り回りました。震災の経験は決して忘れてはいけない。そんな思いで今日は歩いています。(俊哉さん) その年の10月に子どもが生まれたので、子どもの年齢と震災からの年月が同じなんです。子どもは学校で地震のことを勉強しますが、家でもあの時のことは忘れてはいけないと思って、当時の新聞を捨てずに、ずっと取っています。(香世さん)

「若い語り部を育てています」

兵庫県立舞子高等学校
和田茂環境防災科科長



環境防災科では1学年40人の生徒が学んでいます。阪神・淡路で何を経験し、教訓は何だったのかということは、1年生で徹底的に学びます。そして生徒たちは学んだことを、小学生に伝える出前授業などに取り組んでいます。今の生徒たちは誰も阪神・淡路を経験していません。でも「経験していないから、伝えられない」では駄目。それではすべての災害の経験が残らなくなってしまいます。私たちは、阪神・淡路を語り継がねばならない。生徒全員がその語り部になれるよう頑張っています。

「いざというときの支えになる 奉仕精神」

兵庫県三木市赤十字奉仕団委員長
八木和子さん(77)



(兵庫県赤十字奉仕団の一員として、防災訓練会場のなぎさ公園で豚汁600食を炊き出し、参加者に提供) 震災当日の朝10時に団員とおにぎり500食を作って、役所から被災地に運んでもらったり、3日目からは団員10人ほどで被災者の皆さんが避難されていた小学校で炊き出しをしたり。奉仕団としてお手伝いを1年以上続けさせていただきました。阪神・淡路の後も、東日本大震災、昨年の熊本地震などが起きましたが、災害はいつどこで起こるか分かりません。だからこそ日赤の奉仕の精神、奉仕団の活動は大切。今日の炊き出しも、そうしたときに備えての訓練を兼ねています。

組織内での経験の継承も課題に

兵庫県支部 藤原雅人事務局長



日赤の前は県庁職員として17年間、復興の仕事に携わりましたが、一番の問題は高齢者の生活をどう支えるのかでした。震災後、仮設住宅から恒久住宅への引越しを高齢者優先で進めましたが、その結果、高齢者が集中する団地ができてしまった。一人暮らしで、家に閉じこもる方も少なくありません。特に男性が目立ちます。コミュニティーをどうつくり、その中で高齢者をどう見守っていくのかは、22年がたった今も大きな課題です。しかしわれわれのこうした経験は、その後の震災時に生かされるなど、無駄ではなかったと思っています。そうした意味でも、語り継ぎは大切。個人や地域はもちろん、行政や日赤などの組織内でも必要です。次の災害発生までは数十年以上の単位でしょうから、組織内に経験者がいなくなるのは自明。その穴を埋めるのが語り継ぎだと思います。

被災された方々を支援するため、
下記のとおり義援金を受け付けております。
温かいご支援をよろしくお願いたします。

義援金名称 平成28年新潟県糸魚川市
大規模火災義援金
受付期間 平成29年3月31日(金)まで

郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00130-7-602726
口座加入者名 日赤平成28年新潟県糸魚川市
大規模火災義援金

※窓口でのお振り込みの場合、振込手数料は免除されます
※窓口でお渡しする半券(受領証)は、寄付金控除申請の際に必要となります
※銀行振り込み、被災地の新潟県支部の口座でも受け付けております
※お寄せいただいた義援金は、手数料などをいただくことなく、新潟県に設置されている「義援金配分委員会」を通じ、全額を被災された方々にお届けいたします

詳しくは日本赤十字社のウェブサイト
(http://www.jrc.or.jp)をご覧ください



新潟県糸魚川市で昨年12月22日に発生した「平成28年新潟県糸魚川市大規模火災」に際し、日本赤十字社新潟県支部は被災者の皆さんに救援物資を配布するとともに、救護班が避難所での巡回診療に当たりました。この火災では全焼120棟を含む合計147棟が焼損。焼失面積が約4万平方メートルに及ぶ大きな被害が出ました(糸魚川市駅北大火対策本部発表1月23日現在)。

新潟県支部は現地からの要請に基づき、緊急セット100セット、安眠セット200セット、毛布200枚などの救援物資を積み込組みました。

また、多くの安全奉仕団員が救援物資の配布とともに、社会福祉協議会の災害ボランティアセンターの立ち上げや運営を積極的に協力。焼失現場で重機を使って行う「思い出探し」で、ボランティアの安全管理に従事するなど、さまざまな活動に取り組んでいます。

糸魚川市大規模火災
日赤が直ちに救援活動
んだ先遣隊を直ちに派遣。赤十字安全奉仕団糸魚川市分団の団員らの協力により、同日中に市内3カ所の避難所を配布しました。一方、長岡赤十字病院の医療スタッフによる救護班は同日夜から2日間をわたり、各避難所を訪問し巡回診療を行いました。

社会福祉法人黎明会 (公社)全国有料老人ホーム協会正会員
介護付有料老人ホーム
熱海 ゆとりあ の郷
雄大な眺望と温暖な風土のもと、心豊かに暮らす...
「熱海ゆとりあの郷」には、ほんものの豊かさ、心の安らぎがあります
特別見学会の日程
2月 7日(火)、13日(月)、23日(木)
3月 7日(火)、16日(木)
熱海ゆとりあの郷「東京入居相談室」
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル東館2階
検索 熱海 ゆとりあ ホームページ http://www.yutoria.net
見学の申込みや問い合わせは、下記フリーダイヤルまで。
フリーダイヤル 0120-058-211 受付時間/9時~17時 月曜~金曜
●所在地/〒413-0038 静岡県熱海市西熱海町1丁目24番1号 TEL.0557-81-2322/FAX.0557-82-5260
●交通/新幹線・東海道本線熱海駅下車 熱海駅から専用マイクロバス運行(約15分) ●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護) ●居住の権利形態/利用方式 ●利用料の支払い方式/一時金方式 ●入居時の要件/入居時自立 ●介護保険/静岡県指定介護保険特定施設(一般型特定施設) ●介護予防特定施設 ●介護居室区分/全室個室 ●一般型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制/2.5:1 以上

ちょっと「ほっ」とな認知症の話

笑顔を介護のパートナーに

もし認知症になったら? そう問われて「喜んだり、悲しんだりすることがなくなるのだろう」「何も分からなくて、きつとつまらない毎日」と答える人はいませんか。そんな方は是非、今回の特集をお読みください!

厚生労働省によると、2012年の時点で65歳以上の7人に1人(約462万人)が認知症で、8年後の2025年には5人に1人(700万人)にその数が膨れ上がると推計されています。高齢

化社会にあって、認知症は誰にとっても無関係はいられません。にもかかわらず、認知症とその介護についての正しい情報が広がっていないのが現状です。

生き生きした毎日を送る認知症の方は大勢います。そのカギを握るのは、認知症の正しい知識と支えていく心構え。そうした理解を家族と地域に広げていくことは、誰にとっても暮らしやすい社会につながっていくはずです。



「まだこれができる!」 毎日の介護で、良いこと探しを

成田赤十字病院 認知症看護認定看護師
佐々木 香さん

—認知症患者さんを取り巻く環境について、今どんなことが課題になっていますか?

報をもっと伝えなければと思ってます。

—暴力的な行動や徘徊など、介護に困難を伴う方も少なくありませんが…

—どんな行動にも理由があります。例えば、おむつの中に手を入れてしまったり外したりして、汚物で体を汚してしまう方がいます。これは「おむつでお尻が気持ち悪い」というのが原因。一番困っているのは認知症の方ご本人なんです。

—でも、これは事実と異なります。認知症の診断を受けても、穏やかに生活している方はたくさんいますし、何もかもができなくなるわけでもありません。

—高年齢の方や認知症患者さんを抱えるご家族に、安心できる情

報をもっと伝えなければと思ってます。

—周囲の対応で、症状の現れ方が変わるといえるのでしょうか?

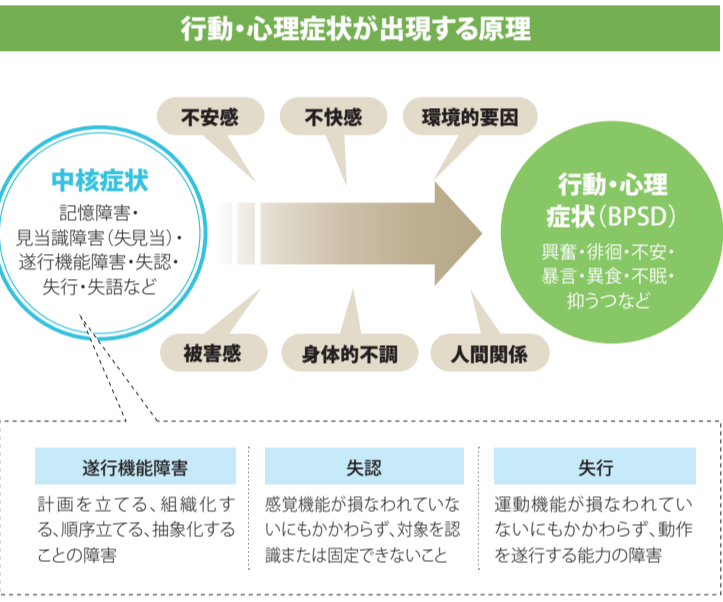
—直前に起きたことを忘れてしまうような記憶障害や、時間や場所の感覚が分からなくなる見当識障害(失見当)などは、脳の細胞が壊れることで起きるもので「中核症状」と呼ばれています。認知症になると、こうした障害の発症が避けられません。

—一方、徘徊や暴力、不潔行為などは、環境や人間関係などの要因が中核症状と絡み合って発症するもので、行動・心理症状(BPSD)と呼ばれています。家族など周囲の上手な対応があれば、発症を抑制・改善することが可能です。

—具体的な対応方法を教えてください。

—認知症の過半数を占めるアルツハイマー型は、脳が委縮する病変ですが、「好き」「嫌い」などの感情を司る脳幹部分は最後まで機能することが分かっています。

—例えば、怒られたり、意地悪なことをされた場合、具体的な事実を忘れてしまっても、それを通じて感じた「悲しみ」「怒り」の記憶は消えませんが、もちろん「うれしい」「心地よい」という気持ちも残ります。これを大切にあげてください。そうして感じた温かな気持ちの積み重ねが、行動・心理症状の改善に



つながります。また勘違いしている方もいますが、認知症になっても、一瞬一瞬は物事を理解できる人が多いです。「認知症の方だから…」と本人への説明抜きに、いきなり治療行為を始めるケースを耳にしたこともあります。知らない人に囲まれて、いきなり注射を打たれたりすれば、不安になって暴れるのも当然です。

—私たちが意識を変えることが大切ですね。

—介護する方は、さまざまな困難に日々直面していると思います。で

も、怒ったり、悲しんだりしても認知症は治らない。怒ると自分も疲れるし、相手には嫌な思いが残るだけです。

—私がお勧めするのは「良いこと探し」です。認知症の方を目の前にすると、「あれもできない」「これもできません」とマイナス面に注目してしまいがちです。でも、安全で心地よいところという感情は心に残るんです。ですから、安全を考慮し、接する時の笑顔が一番に心掛けています。

—一人一人のこだわりを発見しよう

—とはいつても、「もう帰る!」と言ったり、「あの人は嫌い」と部屋を出て行ってしまったり、時には暴力的になる方も。また、時間や日によって興奮したり穏やかだったり、表情や行動がガラッと変わる方もいます。

—担当職員や場所を変えてみたり、サービスの内容を変えてみたり。試行錯誤のうちに忘れてならないのは「いろいろなかことができなくなった、忘れたい認知症の方も、長い人生の中で積み上げた経験があり、プライドがある」。そして「その人なりのもっともな理由がある」と



正直で素直なあなた 大変に感じることもあるけど 喜ぶ笑顔を見ると全てが吹き飛ぶんだ

認知症介護の最前線から Interview

「肩の力を抜いて、笑ってみませんか」
日本赤十字社総合福祉センター
「レクロス広尾」デイサービス相談員
片桐 由紀子さん

ご自宅で生活されている要介護(要支援)の方に日中過ごしていただくデイサービス。ご本人の心身の機能や社会性を維持するとともに、ご家族の介護負担を減らす役割を担っています。レクロス広尾では、一般型と認知症対応型の二つを提供し、1日平均40人くらいの方が利用されています。心地良く過ごしていただき、そして次回も気持ち良く来所いただきたいと思っています。

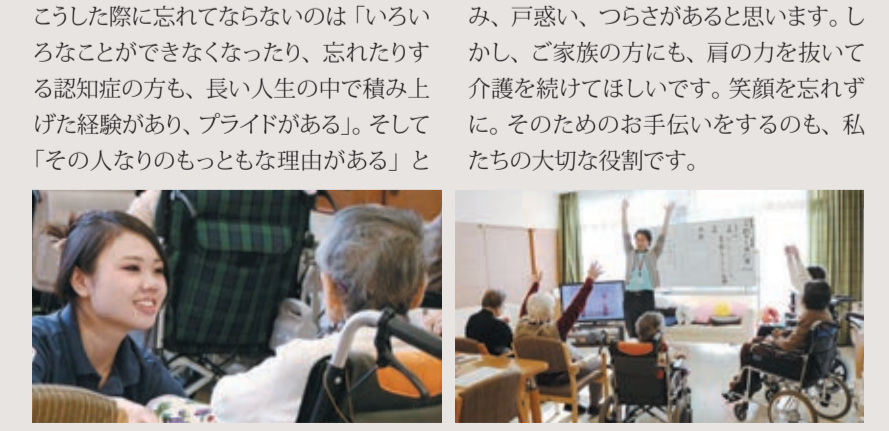
—そのためのポイントは職員は職員、認知症の方は「好き・嫌い」や「気持ち良い・悪い」という感情でストレートに行動されるからでしょうか。皆さん、相手の表情や声のトーンから感情を読み取ることにとても敏感です。職員の名前や顔は覚えていなくても、ここどこなのかを忘れてしまっても、「安全で心地よいところ」という感情は心に残るんです。ですから、安全を考慮し、接する時の笑顔が一番に心掛けています。

—もちろん困難な場面はたくさんありますが、「それだけはやめて…」などということはあるけど、面白くて笑っちゃうとか。私たちが想像もしないような行動を取られると、「そうきたか!」と逆に興味が湧き、感動さえします。

—ご家族や身内の方からすると「そんなのんきなこと…」となるかもしれませんが、でも、デイサービスの利用者の中で80代はまだまだ若い! 90~100歳が当たり前の世界です。認知症の介護は10年、20年と続く可能性もあります。深刻に悩まながらの介護は絶対に続けられません。

—各ご家庭ともさまざまな状況を抱えていますし、また本人のそれまでの人生、人となりを知っているご家族には多くの悩み、戸惑い、つらさがあると思います。しかし、ご家族の方にも、肩の力を抜いて介護を続けてほしいです。笑顔を忘れずに。そのためのお手伝いをするのも、私たちの大切な役割です。

—「健康生活支援講習」や短期講習「地域で支える認知症」は、各都道府県支部で随時開催しています。お問い合わせは、各都道府県支部まで。講習リンク先一覧: <http://www.jrc.or.jp/search/study-link/index.html>



認知症の方への対応 こんな時どう介護したら?

見当識障害(失見当)
—今日の日付や季節、場所や人物がわからない
まずは話を合わせて、本人の気持ちを受け入れます。「違うでしょ」「何を言ってるの」など、間違いを正しても、本人は混乱してしまいます。気分を悪さないようであれば、都度、一緒に確認しましょう。

実行機能障害
—買い物から下ごしらえ、調理までの一連の料理の段取りが上手くできず、味付けが変わった
段取りが上手くできなくなっても、野菜の皮をむくなど、身体が覚えている動作はたくさんあります。一緒に行って、保たれている能力を活用するよう支援しましょう。声掛けは命令口調ではなく、促すような優しい言葉で。

徘徊
—目的を持って歩き始めるものの、長時間さまよっている
怒ったり、閉じ込めるのはやめましょう。どこに行くのか、なぜ行きたいのか、本人の目を見て話をしっかりと聞きます。昼間なら一緒に散歩に出るのもよいでしょう。もしものときに連絡をもらえるよう、近所の商店や交番に本人とあいさつに行き、介護者の電話番号を伝えておくのもよいでしょう。

物とられ妄想
—財布や通帳などが見つからず、「あの(身近な嫁や娘など)が盗った!」と疑う
身近で一生懸命お世話しているにもかかわらず、疑いをかけられ本当につらいことです。けれども、落ち着いて対応しましょう。むやみに怒らないようにし、「お財布がなくなったのですか。それは大変!一緒に探しましょう」というように、「盗られた」という言葉は使わず、本人の気持ちを受け止めて対応しましょう。

※徘徊の背景にある要因の例

- 認知症の中核症状によるもの: 記憶障害や見当識障害により、状況を正しく認識できないことに不安を感じ、手がかりを探そうとして歩き回る
- 身体症状によるもの: 便秘や下痢、身体のどこかに痛みを感じ、落ち着かず歩き回る
- 生活習慣によるもの: 過去にその時間に習慣づいた行動がある
- 幻覚・妄想などによるもの: 精神症状により興奮し落ち着かず歩き回る
- 欲求によるもの: トイレや人を探したり、家に帰りたいという自分の欲求で歩き回る
- 前頭側頭型変性症の特徴: 同じ行動を繰り返すようになり、同じところを歩き回る
- 常同的なもの: 新しい環境に対する不安感や安心できる場所を探すために歩き回る

認知症理解の入門にどうぞ。前向きになれる映画です。

佐々木看護師のオススメ映画
ペコロスの母に会いに行く

出演: 岩松了、赤木春恵、原田貴和子、加瀬亮、竹中直人
監督: 森崎東 原作: 岡野雄一 配給: 東風
2013年 | 113分 |

あなたも認知症を支える地域の担い手に

「地域で支える認知症」赤十字講習のご案内

地域の中で認知症患者を見守り、認知症患者や家族を支える支援者を育てるため日本赤十字社は昨年4月、小冊子「地域で支える認知症」を発行。認知症への理解を深め、適切なサポートの実践に役立つ内容で、同冊子による短期講習を行っています。

認知症サポーター養成講習に準拠

認知症の推定有病者は462万人(平成24年時点)。その過半数が在宅で生活しています。認知症高齢者を地域で支えるため、厚生労働省では「認知症サポーター」を来年度末までに800万人養成する目標を掲げています。日赤の講習「地域で支える認知症」は、このサポーター養成の講習に準拠した内容。受講者にはサポーター同様、認知症高齢者が安心して生活できる地域づくりを担う役割が期待されています。

講習は各都道府県支部で

「健康生活支援講習」や短期講習「地域で支える認知症」は、各都道府県支部で随時開催しています。お問い合わせは、各都道府県支部まで。講習リンク先一覧: <http://www.jrc.or.jp/search/study-link/index.html>



海外たすけあい 全国各地で募金活動 ご協力をありがとうございました

「海外の苦しんでいる人のため、募金をお願いします!」—日本赤十字社とNHKが毎年共同で実施している「海外たすけあい」。昨年も12月1日から25日まで全国各地で街頭募金など各種のキャンペーンが展開されました。

茨城県では茨城大学学生赤十字奉仕団が、NHK水戸放送局で行われた「歳末・海外たすけあい オープニングセレモニー」に出席。新屋敷優華委員長は「世界には、紛争や災害、病気などに苦しむ人々が大勢いる。自分たちにできることで、助けを必要としている人々の力になりたい。たすけあいの輪が広がるとうれしい」と語りました。

各地の街頭募金では青少年赤十字(JRC)の子どもたちも大活躍しました。山口県の山口市立宮野幼稚園では、「外国にも困っている人がいるから、みんなで助けてあげようね」と事前に勉強した年長の園児たちが園内で募金活動を実施。登園する園児と保護者に「募金をお願いします!」と大きな声で呼び掛けました。同園での募金活動は10年以上続く恒例行事で、多田智子園長は「年長さんになったらこの活動ができると園児たちも楽しみにしています」と話します。

香川県ではJRCメンバーの児童・生徒と高松市赤十字奉仕団や青年赤十字奉仕団のメンバーがコラボ。総勢200人近い大部隊が高松市内3カ所で募金を呼び掛けました。

全国のこうした活動を通じて寄せられた寄付金は、中東やアジア、アフリカを中心にした各地の人道支援活動に活用していきます。募金に協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



高松市内の商業施設などで行われた街頭募金は1日で23万7000円余りに



神奈川県横浜市の立見みなと総合高校のJRCメンバーは横浜中華街で街頭募金



山口県内のJRC加盟校の中には、校内放送や正門などで募金協力を呼び掛ける学校も



茨城大学学生赤十字奉仕団は学園祭の模擬店売り上げの一部を「海外たすけあい」に寄付



JR大分駅前ではJRC加盟の幼稚園児が寄付を呼び掛け、集まった募金をNHKに持参

キラリ輝く子どもたちの感性を応援 各地で表彰式

兵庫県 / 福島県

兵庫県支部が主催する「赤十字ポスターコンクール」の表彰式が11月30日に行われました。今回は63校から402作品が寄せられ、「いのちを守る赤十字の活動」をテーマとした60作品が各賞に選ばれました。作品は県内各地で展示予定です。

福島県支部が青少年赤十字加盟校を対象に行っている「詩・100文字提案」には今回、64校から6685作品が寄せられ、46作品が各賞を受賞しました。12月26日に支部内で行われた表彰式では、受賞者による作品発表も行われました。



最優秀賞に輝いた三輪寧々さん(高2)の作品(兵庫県)



日本赤十字社社長賞の庄司礼実さん(中3)(福島県)

院内でドッグセラピー “ワン”ダブルな癒し効果

京都府

京都第二赤十字病院に開設されている「がんサロン」で12月16日、患者さんが犬と触れ合うドッグセラピーが開かれました。

がんサロンは、患者さんやご家族がお互いの悩みを相談する場として開設されたスペース。がんと上手に向き合い、不安や孤独感を和らげる役割を果たしています。

ドッグセラピーは、こうしたサロン活動の一環として、京都セラピードッグクラブの協力を得て、年3回開催しています。この日は、スタンダードプードルやピレネーなど4匹が参加。犬をなでたり交流を楽しんだ患者さんからは「この時間は病気のことを忘れられました」といった声も聞かれました。



動物と接することで心が癒されたり、前向きになれるなどの効果があるといわれています



私たちがサンタクロース! 各地でクリスマスイベント

富山県 / 大阪府 / 京都府



トナカイに扮した学生は、子どもたちと一緒にクリスマスソングを合唱(富山県)

富山赤十字看護専門学校1、2年生19人が12月22日、富山赤十字病院と院内保育園、富山県乳児院を訪問。「ジングルベル」や「さんぽ(となりのトトロ)」などのハンドベル演奏を披露しました。

大阪府の赤十字裁縫ボランティアは12月初旬の2日間、府内の乳児院4施設を訪問し、手作りのパジャマやボールなどを寄贈。子どもたちは早速試着をしたり、遊んだり、笑顔が広がりました。

京都府支部有功会のメンバーは12月21、22日、京都第一赤十字病院と京都第二赤十字病院の小児科病棟を訪問。入院治療中の子どもたちにプレゼントを手渡し、早く元気になれるようにと励ましました。



「これからも子どもたちに喜んでもらえるものを作っていきたいです!」(大阪府)



ハートラちゃんだいすき! ハートラちゃんの似顔絵を届けてくれたお子さんも(京都府)



参加企業・団体 募集中!

赤十字レッドライトアッププロジェクト
「人道」のともしびを日本中に

赤十字の創始者アンリー・デュナン生誕日の5月8日は世界赤十字デー。日本赤十字社では、この日を中心に日本各地を赤十字色に彩る「赤十字レッドライトアッププロジェクト」に取り組みます。紛争や災害で苦しむ人に寄り添い、人道活動を行う赤十字運動への理解を深める機会にしたいと、昨年からスタートしたイベントです。今年も幅広い企業・団体に参加いただきますようお願い申し上げます。初めて取り組んだ昨年5月は、歴史的建造物やランドマークなど全国24施設が参加。前月に発生した熊本地震の被災者や救護・支援活動に取り組む方への応援の思いを込めて、全国を照らしました。



「赤十字レッドライトアッププロジェクト」への参加に関するお問い合わせは answer-koho@jrc.or.jp までメールでお寄せください。

活動資金ご協力のお願い 人間を救うのは、人間だ。

大きな災害などが起きると、全国から日本赤十字社に寄せられる義援金。義援金は被災地の義援金配分委員会を通じてその全額が被災者の方々に渡ります。一方で、被災地での医療救護活動や被災者の皆さんに配布される毛布や日用品セットといった救援物資には義援金は一切使われていません。日本赤十字社のこうした災害救護活動や国際救援活動、青少年への防災教育活動、救急法の講習など、人間のいのちと健康、尊厳を守る人道支援活動はすべて皆さまからのご寄付である活動資金によって成り立っています。ご協力には以下の方法があります。

- ①お住まいのお近くの赤十字窓口から (全国47都道府県に支部を設置しています)
- ②口座振替による継続的な支援
- ③クレジットカードによる継続的な支援

詳しくは、パートナーシップ推進部 (03-3437-7081) へお問い合わせください。または、日赤ホームページをご覧ください。



日赤 活動支援 検索

AREANEWS

国際交流で防災学習やAED体験

香川県

「国際交流 学ぼう防災 & 楽しもうフットサル・ピンポン」(仏生山国際交流会主催)が11月23日に開催され、香川県支部は非常食作り体験などの協力を行いました。

イベントには、インドネシアやマレーシア、中国、タイ、アメリカなど12カ国の留学生と市民ら約150人が参加しました。非常食作りでは、イスラム教の戒律に従い豚肉などを使わない「ハラール食」を調理。炊き出し袋(ハイゼックス)で作ったご飯に加え、インドネシアの鶏肉料理「アヤムケチャップ」を作りました。また香川県赤十字安全奉仕団の指導で、心肺蘇生・AED体験にも取り組みました。



防災・減災の学習に加え、留学生との相互理解を深める良い機会にもなりました

JRC高校生メンバーが餅つきで高齢者を激励

大分県

大分・別府市の青少年赤十字(JRC)高校生メンバーが12月23日、大分県支部周辺で一人暮らしをしている高齢者にお餅を配るため、同県支部で40キログラムの餅つきをしました。

餅の配布は、独り暮らしの高齢者を訪問する活動をしていたJRCメンバーが「高齢者と話すきっかけづくり」と昭和48年に始めたもので、今年で43回目になります。

メンバーは翌24日、手書きのメッセージカードを添えたお餅を民生委員さんの協力の下、230人の高齢者に届け、交流を行いました。高齢者からは「今年もありがとう」「頑張ってるね」など、お礼と激励の言葉が寄せられました。



餅つきの計画はJRCメンバーが立案。経費は文化祭のバザーや募金活動で賄いました

声の図書赤十字奉仕団がリスナーと交流

兵庫県

月刊誌や図書などの音読をCDに録音し、全国の視覚障害者(リスナー)の方々に届ける活動を行っている兵庫県声の図書赤十字奉仕団が、11月23日にリスナーの方々と交流会を開催。食事会やヴィオラ(大正琴をベースにした弓で弾く楽器)のコンサート、歓談などで交流を深めました。

交流会は今年で27回目。参加したリスナーの方々からは「久しぶりに会い、たくさんお話ができて楽しかった」など、交流会の実施に向けてミーティングを重ねてきた実行委員にとって、うれしい言葉が聞こえました。



ヴィオラに触れるリスナーの方々

プレゼント

キャンバスクロストートを3名様にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 2月号を手にした場所(例/献血ルーム)
- ⑥2月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつかでも)
 - Ⓐ今月の出会い Ⓑ子どもたちがうどん作りに初挑戦
 - Ⓒ北海道で厳冬期災害演習 Ⓓ平成28年熊本地震災害 義援金情報
 - Ⓔ愛知県支部の多文化共生事業 Ⓕ健康豆知識 Ⓖ阪神・淡路大震災から22年
 - Ⓗ糸魚川市大規模火災、救援活動のご報告 ①特集 ちょっと「ほっ」とな認知症の話
 - ②エリアニュース ③赤十字レッドライトアップPJのお知らせ
 - ④常任理事会開催報告、第89回代議員会開催公告 ⑤プレゼント
 - ⑥ヨルダン赤新月社が「こころのケア」 ⑦救済金ご報告 ⑧人道支援の現場から
 - ⑨赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

応募先 ● 郵 送 / 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 2月号プレゼント係 FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 2月号プレゼント係」)

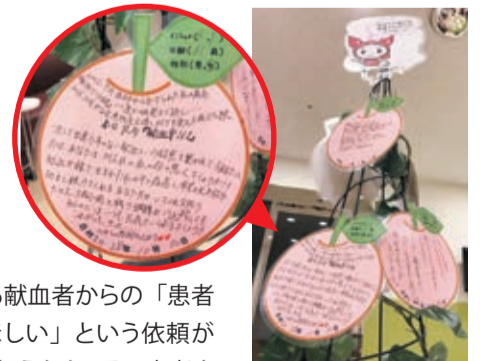
応募締切 ● 2月27日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

「献血は希望の光」 ルームに輸血者からのメッセージ

徳島県

徳島県赤十字血液センターは、輸血を受けた患者さんから寄せられたメッセージを献血ルーム「アミコ」に展示。献血者に感謝の思いを届けています。

この取り組みは昨年8月、ある献血者からの「患者さんに元気になってと伝えてほしい」という依頼がきっかけです。病院にその声を伝えたと、患者さんや家族ら6人からお礼のメッセージカードが寄せられました。メッセージを読んだ堤昌彦さん(41)は「自分の血液を役立ててもらえてうれしい。献血の励みになります」と94回目の献血に臨みました。



がん患者の女性は、献血を「希望の光」に例えて感謝を表明



シリア難民支援 ヨルダン赤新月社が「こころのケア」 避難生活の不安やストレスをケア

明るく彩られた部屋の中では、子どもたちがお絵描きをしたり、演劇をしたり。でも中には、一つの物事に集中して取り組めない子どもの姿も。ここはヨルダン赤が同国内に設けている「こころのケアセンター」。シリア難民の親子などを対象に、遊びやグループ活動を通じたこころのケア活動に取り組んでいます。難民の数が急増し、避難生活が長期化する中、その活動に注目が集まっています。

人口約646万人(2013年)のヨルダンが受け入れているシリア難民は65万5833人(昨年11月7日時点)。その半数以上が18歳以下の子どもたちです。命からがら逃げてきた人が多く、先が見えない避難生活にストレスを募らせている人も。子どもたちの中には、紛争や避難時に感じた恐怖から気持ちが不安定になり、しゃべれなくなったり、乱暴になったりというケースも少なくありません。「こころのケアセンター」は、元タイラク難民を支援するため、ヨルダン赤が2008年から取り組んでいるもの。現在の利用者はシリア難民がほとんどです。生活基盤の喪失によるストレスをケアしたり、避難先での社会的なつながりをつくる拠点として活用されています。また、子どもたちにとっては、遊びを通じて安心感や落ち着きを回復させる場となっています。全国13カ所に設けており、昨年度は子どもたちやその親、高齢者など3万人以上のシリア難民をケアしました。

銃撃や爆弾の絵を描く子どもたち

昨年9月、ミス・ユニバース2016日本代表の中沢沙理さんが赤十字ボランティアとしてヨルダンを訪問し、「こころのケアセンター」を訪れた時のことです。子どもたちが粘土を使って「悲しいと感じた時の絵」を描いていました。うまく言葉にできず、抑え込んでいた感情を表に出そうという試みです。ある少年は、戦闘員が家に向かって銃を撃つ絵を描きました。「どのようにしたらその絵を幸せな絵に変えられる?」というスタッフの問いかけに、「この絵から戦闘員と銃弾を消したい」と話し、銃を消して幸せな家の絵に変えました。このような活動で、「自分で世界を変えられる、幸せを望んでいんだ」という自信を取り戻していきます。この活動に触れた中沢さんは「すぐに戦闘員や爆弾の絵を描き始める子どもたちが衝撃的で…。日本の子どもに



家を戦闘員に銃で撃たれている絵



「こころのケアセンター」でお絵描きをする子どもたち

は絶対に見られない光景でショックでした」と振り返り、「このセンターは、感情を吐き出す場としてすごく重要だと再認識しました。紛争のストレスだけでなく、長引く避難のストレスが少しでもケアされると良いと思います」と語ります。

中東人道危機救援金にご協力ください

日本赤十字社は国際赤十字の一員として、同センターの活動を支援しています。紛争により生活を失い、先が見えない国外避難生活を余儀なくされているシリア難民は481万人(2016年12月現在、国連発表)。また、シリア国内には逃げたくても逃げられない人が大勢残されています。日赤本社国際部の佐藤展章国際救援課長は「彼らの命をつなぐためには、まず私たちが彼らのことを忘れてはいけないということ、そして継続的な支援を続けていくことが大



「こころのケアセンター」を訪問したミス・ユニバース2016日本代表の中沢さん(中央)

事です」と訴えます。中東人道危機救援金にご協力ください。

救援金名称 中東人道危機救援金

受付期間 平成29年3月31日(金)まで

協力方法

①郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)
※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます

口座番号 00110-2-5606 / 口座名義 日本赤十字社

②銀行振込

三井住友銀行	すずらん支店	普通 2787740
三菱東京UFJ銀行	やまびこ支店	普通 2105745
みずほ銀行	クヌギ支店	普通 0623323

※口座名義はいずれも「日本赤十字社(ニホンセキジユウジヤ)」
※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります

③クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy
詳細は日赤のホームページ [検索](#) [日赤](#) [中東](#) をご覧ください。
(本情報は2017年1月24日現在のものです)



救援金のご報告 ~ご協力ありがとうございました~

2016年イタリア中部地震救援金

件数: **2,076**件 金額: **49,619,369**円

(2016年12月末日現在)

皆さまからイタリア中部地震災害に寄せられた救援金は、イタリア赤十字社による捜索救助活動や救急車での搬送支援、食料配布およびこころのケアなどの被災者支援に活用されました。イタリア赤十字社がイタリア政府や支援団体と協働して取り組む今後の復興活動にも役立てられます。

2016年ハイチハリケーン救援金

件数: **724**件 金額: **30,249,955**円

(2016年12月末日現在)



皆さまからハイチハリケーン災害に寄せられた救援金で、マラリア予防のための蚊帳やコレラキットを被害の大きかったグランダンス県内に配布。家族などを失った人々を対象にしたこころのケアも行っています。被災地ではいまだに17万人以上が避難所で暮らしており、今後も感染症を予防する衛生促進、食料配布など基本的な生活支援を継続。また、家畜や農作物を失った人も多いため、日々の糧を得ていくための生計支援も実施予定です。



関塚 美穂
Miho Sekizuka

シリア難民救済事業(レバノン)
名古屋第二赤十字病院(看護師)

手紙 —いつか娘に会える日のために

レバノンの首都ベイルートにある公立大学病院のラフィックハリリ病院。赤十字国際委員会(ICRC)が同院内に設置した病棟に派遣されている私は今、病棟看護師としてシリア難民やパレスチナ難民を対象にした医療支援に従事しています。ある日のことです。男性の患者さんが書き物をしていたので声をかけると、「今日は娘の誕生日。いつか会えた時に渡せるよう、娘に手紙を書いているんだ」と言いながら、幸せそうな家族の写真を見せてくれました。シリアで弁護士をしていた彼は内戦後、反体制派から命を狙われたことで、取るものも取りあえず国外へ避難したそうです。家族も呼び寄せる予定でしたが、彼の住んでいた地域は反体制派の統

治下となり、家族の国外脱出は困難に。連絡を取ることもできないまま5年が経過してしまったといいます。その間に持病の糖尿病が悪化し、左足を切断、右足も全ての指を失いました。それでも「必ず元気になって仕事に戻り、家族と一緒に生活できると信じている」と気丈に振る舞います。娘さんへの手紙を読んでもらうと、そこには父としての思いが溢れ、涙せずにはいらませんでした。両親にあまり連絡していない私を、ときに彼は茶目気たっぷりに、「Bad daughter=悪い娘」と呼びます。少しでも早くシリアの情勢が落ち着き、みんなが元の生活に戻れることを願いつつ、私にできる唯一のこと、適切で心のこもった看護を提供するよう心掛けています。

人道支援の現場から